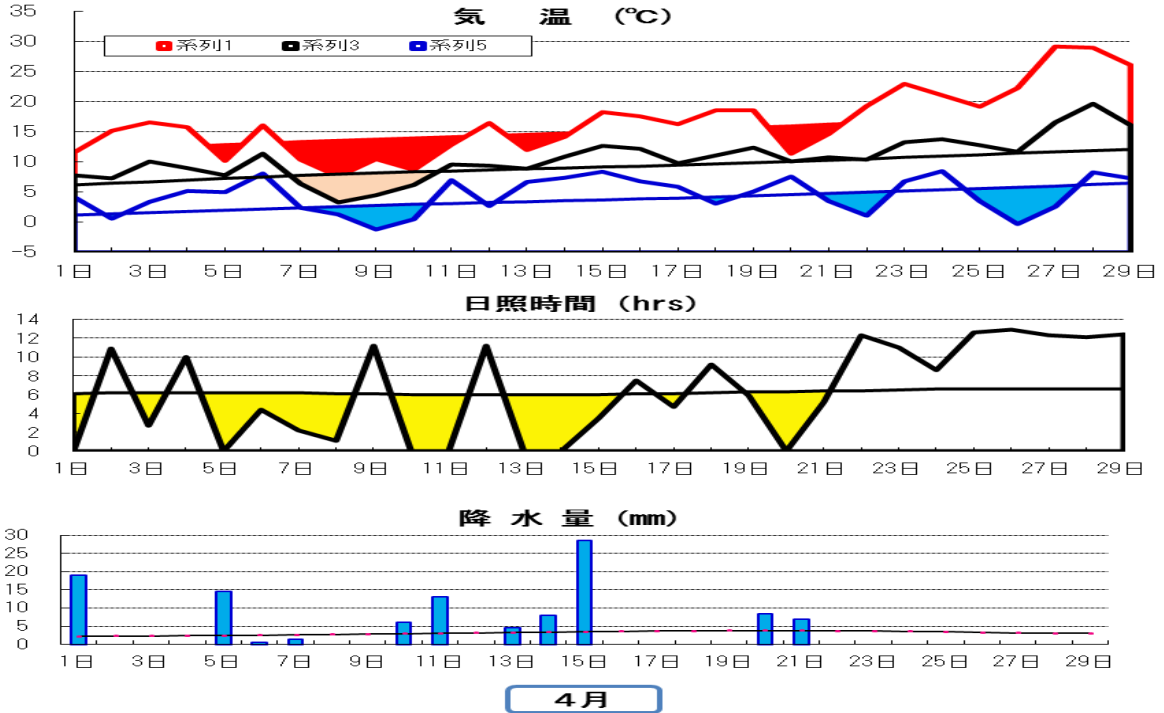


稲作情報1号

平成27年4月30日
JA全農みやぎ

＝平成27年産水稻の高品質米生産を目指して＝

1 育苗期間の気象経過と高温障害対策



旬別気温(°C)

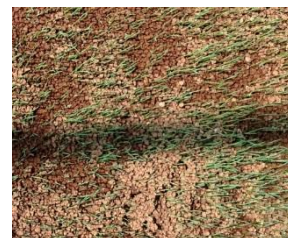
月・旬	平均気温		最高気温		最低気温	
	H27	平年	H27	平年	H27	平年
4月上	7.4	7.4	12.3	12.9	3.0	2.1
4月中	10.7	9.3	15.6	15.1	6.1	3.8
4月下	13.9	11.3	22.7	17.4	4.6	5.7

旬別日照(h)・降水量(mm)

月・旬	日照時間		降水量	
	H27	平年	H27	平年
4月上	42.5	61.5	41.5	25.1
4月中	42.0	61.0	62.5	35.1
4月下	99.4	65.5	7.0	33.8

- ・気温は、播種盛期と思われる第2半旬を除き、4月全般は高めに経過した。特に、下旬は最高気温が30°Cを越す地点も出るなど季節はずれの暑さとなった。
- ・日照時間は、上旬・下旬とも平年比70%少なく、下旬になって多照で推移した。
- ・降水量は、上旬・中旬は多雨となり、下旬は少雨となった。

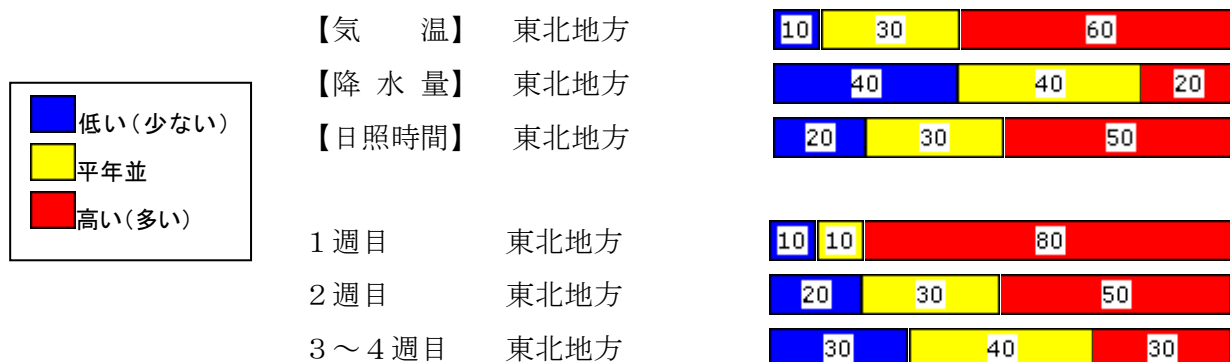
※育苗後半の高温により、苗が障害を受けいわゆる“やけた”農家がでている。
 ※育苗巡回時にもやけて異臭がする苗が見受けられた。
 ※計画的に苗の手当てをするとともに、場合によっては、再播種などを検討する。



2 田植時期の天候予報

〔1か月の天候〕

- ・天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い見込みである。
- ・平均気温は、高い確率が60%で、降水量は、平年並または少ない確率ともに40%である。
- ・日照時間は、多い確率50%です。
- ・週別の気温は、1週目は、高い確率80%で、2週目は高い確率50%である。



3 高品質米生産を目指した栽培管理

(1) 土づくりと施肥

- ・宮城県は、泥炭や黒泥・グライ土壌が多く、排水不良な水田が多かった。
- ・現在は、圃場整備の進展や米からの転作により、乾田化が進んでいる。
- ・良質な堆肥や土づくり肥料の投入が減少し、乾田化等により地力が年々減少している。
- ・一方地球の貴重な資源であるリン鉱石の枯渇が懸念され、カリ肥料の原料であるカリ鉱石もカナダからの輸入が多く、産出国に限られる。
- ・堆肥の施用や土壌診断を実施し、PKが過剰なところではセーブするなど適切に施用する。
- ・3,4月の積算降水量は260mm程度であり、乾土効果は、ほぼ平年並みの窒素発現と思われる。

(2) 移植時期

- ・過度の早期移植は過剰分けつとなり易いので、5月中旬頃を目安とし、有効茎歩合を高める。
- ・本年の田植時期は、好転に恵まれる予想だが、移植は風のない温暖な日を選び実施する。やませが入り、気温が急に低下する場合は、少々育苗が長引いても遅らせる必要がある。

(3) 栽植密度

- ・近年は、疎植傾向にあるが、温暖化を反映し、比較的茎数を取ることは容易となっている。
- ・過度な密植はさけ、地力などの圃場にあった適正な栽植密度と稚苗では4～5、中苗では3～4本の植付本数とする。

(4) 水管理と雑草防除

- ・今冬エルニーニョは、一旦終息したものの、また、夏に向けて海水温が高くなる可能性が指摘されており、低温も予想され天気予報に注意し、異常気象時には、深水管理の徹底が重要である。
- ・除草剤を効果的に使用するには、水の保持が最大の重要事項であり、7日間は止水とし、落水やかけ流しはしない。